スズキ、VWと提携解消（日本経済新聞　朝刊1面）

2015年8月31日の日経新聞1面記事には、「スズキ、VWと提携解消」というニュースが出ていました。2009年の提携後、【7269】スズキが、対立していた独フォルクスワーゲン（VW）と、資本提携を解消するという発表です。英国際仲裁裁判所が両者に仲裁判断を通知し、「VWに保有するスズキ株の売却を命じる」との内容があったからです。これで、スズキは、一旦自社株を全株買い戻し、次の提携先を探すことになります。スズキにとっては、4年越しの懸案事項が解決し、次の段階に進めるので、好材料と考えられます。

そこで、私は桶屋銘柄として、スズキへの販売比率の高い自動車部品メーカーを想定しました。ブルームバーグデータで調べた、売上高に占めるスズキの割合が大きいTOP3のうち、【3526】芦森工業と、【6899】ASTIは予想通り寄り付きよりも上がり、高値でその日の取引を終えていました。一方、スズキは高く寄り付いたものの、その後は下げました。

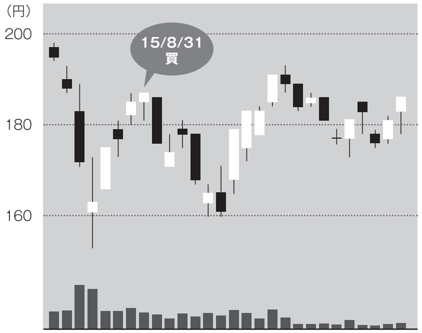
【3526】芦森工業

前営業日終値 185円

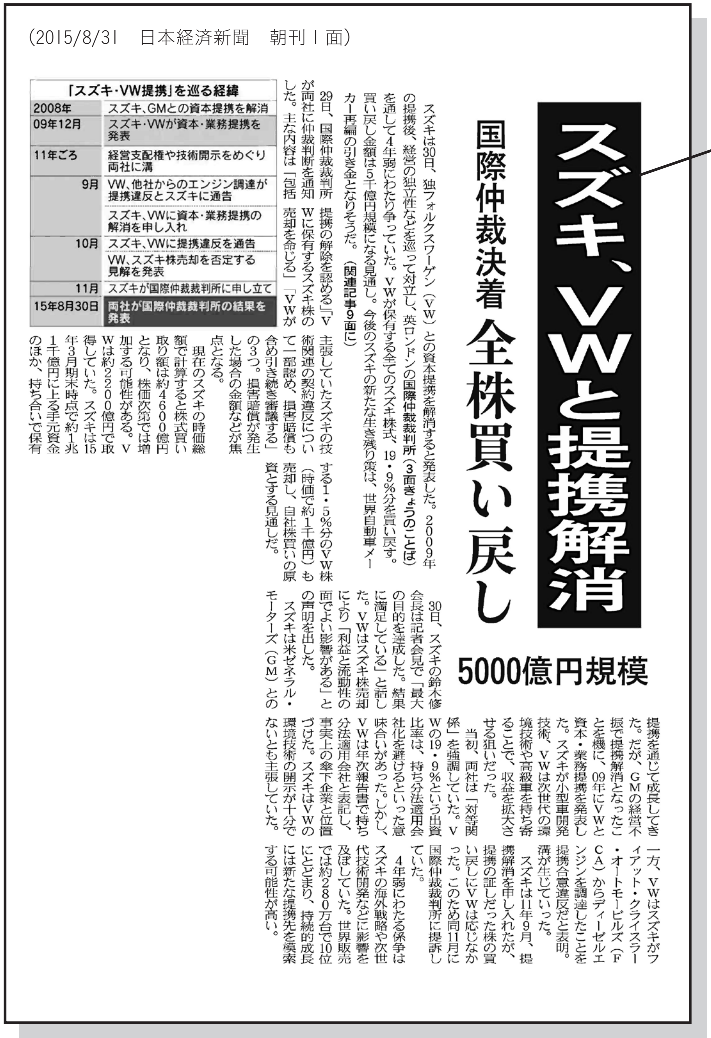
始値 185円　高値 187円

安値 181円　終値 187円

スズキ向け販売比率　17.2%



（2015/8/31　日本経済新聞　朝刊1面）



スズキ、VWと提携解消

国際仲裁決着　全株買い戻し

5000億円規模

スズキは30日、独フォルクスワーゲン（VW）との資本提携を解消すると発表した。2009年の提携後、経営の独立性などを巡って対立し、英ロンドンの国際仲裁裁判所（**3面きょうのことば**）を通して4年弱にわたり争っていた。VWが保有する全てのスズキ株式、19・9%分を買い戻す。買い戻し金額は5千億円規模になる見通し。今後のスズキの新たな生き残り策は、世界自動車メーカー再編の引き金となりそうだ。（**関連記事9面に**）

29日、国際仲裁裁判所が両社に仲裁判断を通知した。主な内容は「包括提携の解除を認める」「VWに保有するスズキ株の売却を命じる」「VWが主張していたスズキの技術関連の契約違反について一部認め、損害賠償も含め引き続き審議する」の3つ。損害賠償が発生した場合の金額などが焦点となる。

現在のスズキの時価総額で計算すると株式買い取り額は約4600億円となり、株価次第では増加する可能性がある。VWは約2200億円で取得していた。スズキは15年3月期末時点で約1兆1千億円に上る手元資金のほか、持ち合いで保有する1・5%分のVW株（時価で約1千億円）も売却し、自社株買いの原資とする見通しだ。

30日、スズキの鈴木修会長は記者会見で「最大の目的を達成した。結果に満足している」と話した。VWはスズキ株売却により「利益と流動性の面でよい影響がある」との声明を出した。

スズキは米ゼネラル・モーターズ（GM）との提携を通じて成長してきた。だが、GMの経営不振で提携解消となったことを機に、09年にVWと資本・業務提携を発表した。スズキが小型車開発技術、VWは次世代の環境技術や高級車を持ち寄ることで、収益を拡大させる狙いだった。

当初、両社は「対等関係」を強調していた。VWの19・9%という出資比率は、持ち分法適用会社化を避けるといった意味合いがあった。しかし、VWは年次報告書で持ち分法適用会社と表記し、事実上の傘下企業と位置づけた。スズキはVWの環境技術の開示が十分でないとも主張していた。

一方、VWはスズキがフィアット・クライスラー・オートモービルズ（FCA）からディーゼルエンジンを調達したことを提携合意違反だと表明。溝が生じていった。

スズキは11年9月、提携解消を申し入れたが、提携の証しだった株の買い戻しにVWは応じなかった。このため同11月に国際仲裁裁判所に提訴していた。

4年弱にわたる係争はスズキの海外戦略や次世代技術開発などに影響を及ぼしていた。世界販売では約280万台で10位にとどまり、持続的成長には新たな提携先を模索する可能性が高い。

「スズキ・VW提携」を巡る経緯

2008年	スズキ、GMとの資本提携を解消
09年12月	スズキ・VWが資本・業務提携を発表
11年ごろ	経営支配権や技術開示をめぐり両社に溝
9月	VW、他社からのエンジン調達が提携違反とスズキに通告 スズキ、VWに資本・業務提携の解消を申し入れ
10月	スズキ、VWに提携違反を通告 VW、スズキ株売却を否定する見解を発表
11月	スズキが国際仲裁裁判所に申し立て
15年8月30日	**両社が国際仲裁裁判所の結果を発表**